

受験参考書あれこれ

Ver1.01

松 井 健

はじめに

受験勉強にはいろいろなスタイルがあります。学校重視の人。予備校重視の人。そして参考書を用いた独学重視の人、等々……。ただ、いずれの場合にせよ極端に走ることは望ましくない、ということは分かっていると思います。たとえば学校の勉強だけで受験に臨むというのは、よほど能力のある人以外にとっては無謀以外のなにものでもないし、予備校だけ、参考書だけというのも同様です。普通の人には、学校-予備校-独学にバランス良く力を配分して、自分にあった勉強法を見つけることが要求されます。

そんなとき、たいていの人がお世話になるのが受験参考書です。ところが、受験参考書と名のつく本は星の数ほど出版されており、どのような本を選ぶべきか迷うことがしばしばあります。そこで以下では、そうした人のために、受験参考書の簡単な紹介と評価を行います。なお、読者として、主に国公立、早稲田、慶応、東京理科大学クラスの理系大学志望者を想定しています。また、それぞれの分野（「単語集」や「和訳」など）の中では基本的に評価の高い順に紹介していますので、本同士の相対評価が知りたい場合は参考にしてください。

参考書や問題集は同じものに繰り返し取り組むことで、はじめて確かな力になるものです。そんなことは分かっているよと思うかも知れませんが、実際はほとんどの受験生、特に現役生は分かっています。失敗してからでは遅いのです。もし気に入った本に出会ったら、4回でも5回でもその本に取り組んでください。以下の記事がそうした本に出会うために少しでも役に立てば、と願っています。

英語

英語学習のポイントは、とにかく紙に書き出すこと。

読むだけで済ますなんてとんでもない。

長文和訳でも英作文でも、ひたすら書くこと。それが一番大事。

英単語

赤の暗記シートを使うと英単語 日本語の学習が、青のシートを使うと日本語 英単語の学習ができる。

そんな3色刷の単語集があればいいのになあ。

システム英単語 駿台文庫 刀祢雅彦・霜康司著

単語は出現頻度順に並んでおり、使いやすい。扱う単語のレベルも適切である。また、重要な英熟語も単語にあわせて掲載されているので、下手な熟語集は不要になる。とりあえず何を買うべきか迷っているならこれ

を買うことをお勧めする。

速読英単語 増進会出版社 風早寛著

必修編と上級編がある。世間での評判はいいらしいが、私は薦めない。前後の文脈で覚えるべき単語の意味が大体分かってしまい、それで覚えた気になってしまうことがしばしばあるからである。また、長文が読みたいのならそのための本が他にいくらでもある。一冊で何でもかんでもやろうとしない方がいいだろう。

単語力がないために文が読めない、という人間にはとことん向かない本である。

英単語ターゲット 1900 旺文社 宮川幸久著

新しいものには例文がつくようになった。しかし、似たような意味の単語が続けて書かれているため、意味の類推が可能になり、効果的に単語力をのばすことが難しくなっている。世間でなんと言っているかは知らないが、お薦めはできない。なお、この本に準拠した確認テストをインターネットでいつでも受けることができる。場所は「ホームページ」の節を参照のこと。

DUO ICP 鈴木陽一著

世の評価はまっぴらに分かれているが、私は、あえてこれを選ぶ必要性を感じない。

これだけ覚えれば大丈夫と断言できる英単語 2247 実業之日本社 小池直己著

大丈夫ではない。そもそも今時英語と日本語の単語の意味を一対一対応にしようとするところからして間違っている。他のものを選ぼう。

英単語センター 1500 東進ブックス 高橋潔著

CD4 枚がついて 1000 円以下という値段に拍手。ただ、扱う単語は非常に基礎的なレベルで、高校 3 年になってこれを手にしているということはかなり追いつめられているということ、と行っていい。単語力が致命的に欠けている人だけここからはじめること。普通は「システム英単語」などを使えばよい。ちなみに東進ブックスのホームページ上にはこの本に準拠した単語力テストプログラムがおいてある。興味があれば見てみると良い。

http://www.kk-nagase.co.jp/info/check_1500/index.html

辞書

ジーニアス英和辞典 大修館書店

英語を学ぶのなら迷わず買おう。英語学習に必携の書である。語法関係の説明が非常に詳しく、例文も多いために英作文でも重宝する。なお、ジーニアス英和辞典の出来は英和に比べるとやや落ちる。しかし和英で引いた単語は英和で確認するという必須の作業を欠かさなければうまく使えることだろう。

リーダーズ英和辞典 研究社

収録語数 27 万。ジーニアスの 3 倍以上である。ひたすら英文を読み込む人が英文を読み込むためだけに使う辞書。大学受験程度では必要ない。

ロングマン現代英英辞典 桐原書店

とかく敬遠されがちな英英辞典だが、本書は説明文や例文が基本の 2000 単語で書かれているので非常にわかりやすい。英文和訳にこだわるのなら是非使って欲しい。

発音アクセント・会話

大学入試ドタン場チェック 発音&アクセント 学研 国生浩久著

書名が怪しさ爆発だが、中身は至極まとも。発音・アクセント頻出語リストはセンター数日前になって大いに重宝する。特にアクセント頻出語はすべてマスターするべきである。予備校の直前講座はこの本と対して変わらない内容なので、「どうしても講座をとりたい!」という人以外は安上がりなこの本を使おう。

ちなみに、駿台の蒲生先生お薦めの本。

センター試験対策薬袋の英語対話問題集 駿台文庫 薬袋義郎著

センター試験の過去問の中から会話に関する問題を集めてきたもの。アクセントに関する問題も掲載されている。センターの問題は傾向が大体決まっているので、会話問題が苦手ならこの本でコツをつかんでおくといよい。

英文法 TOP100 の著者、仲本先生のお薦め。

リスニング

リスニングの文は、普通の長文試験の文とは趣が違うことを知っておこう。

シャドーイング（聞いた言葉を同時に声に出して繰り返すこと）は意外と有効！

速読速聴英単語 増進会出版社 松本茂著

速読英単語を思い出させる書名は売れ行きをのばすためか？それはともかく、本書はリスニングの本である。英単語を覚える本では決していない。本書の英単語学習ページは学習済みの単語を確認するために存在する、と考えるべきである。

付属 CD には 2 通りの読みあげ速度で本文の音読が入っており、使いやすい。リスニングの本としては非常に優れているといえる。

リスニングのトレーニング 増進会出版社 のとう修一他著

速読速聴英単語だけでは演習が足りなくなるので、この本で補強しよう。必修編は東大や一橋の過去問ばかり掲載されている。そうした過去問をやったことがあって、はじめから答えが分かっている人は、上級編から始めればよい。

東大リスニング 増進会出版社

ディクテーション能力を磨くためにはなかなかよい教材である。しかし、40000 円も誰が出すのだ？学校で所持しているのなら先生にお願いして使わせてもらおう。ちなみにこの教材のスピードでは本番の入試に対応できない。書き取る練習の他に、文がもっと速く読まれる、聞き取りの練習が必要となる。

和訳・長文

ビジュアル英文解釈 駿台文庫 伊藤和夫

非常に評判のよい本である。Part I・II の二部構成。基本から入って最終的には文法と読解のルールが体系的に理解できる。ただし「読む」だけではだめで、各課の長文の全訳をすべて紙に「書く」ことが絶対に必要となる。それだけの労力を注ぐ価値は十分にあるので、がんばって訳そう。

英語要旨大意問題演習 駿台文庫 伊藤和夫

要約問題の問題集はあまりないので重宝する。解説が詳しい上、採点基準がついており、誤答例・採点例まであげてある。パラグラフフリーディングで大意をつかめ、と叫ぶ本などよりよほど文意把握能力が身につく本である。

英文和訳演習 駿台文庫 伊藤和夫著

採点基準がついているのが嬉しい。自分に厳しく採点して反省をすれば成績はかなり伸びる。解説も相当詳しく書かれている。この本はレベルに応じて 4 冊に分かれている。理系の場合、受験時には中級編を大体こなせるようになっていけばいいだろう。上級編は難しい。中級編を何度か繰り返した方がいい。

駿台文庫特有の見にくい字体にめげず、がんばって読もう。

英語総合問題演習 駿台文庫 伊藤和夫著

相変わらず採点基準がついているのが嬉しい。相変わらず字体は見にくい。私は要旨大意問題演習、英文和訳演習、それに本書をあわせて英語の3大演習書と呼んでいる。

英文翻訳術 ちくま学芸文庫 安西徹雄著

非常に優れた本である。しかし、程度も非常に高いため、これをマスターして解答を作成すると、採点者が「こいつは本当に分かってこのような訳を作っているのか？」と疑い出して、危険かもしれない。

翻訳のノウハウを効果的に組織化するために、伝統的な英文法の枠組みを利用している点が珍しく、かつ秀逸である。また、文庫にも関わらず演習問題が載っていたりと、作りがおもしろい。受験英語に疲れてきた人は読んでみるといいかもしれない。姉妹図書に「英文読解術」(ちくま新書)がある。

徹底英語長文読解講義 桐原書店 中澤一著

パラグラフリーディングを強烈に押し進めている本。しかし、パラグラフリーディングは、英語を十分読める人が文章の全体像をつかむために使う技法であって、英語を読めない人間がつかむ藁ではない。そのことを肝に銘じた上ではじめてこの本を手にするべきだ。世の評判はいいのだが、私はどうしてもこの本を好きになれなかった。

英作文

自分の言いたいことを「できる限り簡単な」英文を使って書く、というのが英作文の基本。

英作文のトレーニング 増進会出版社 石神勉著

入門編と実戦編があるが、入門編の出来がすばらしい。英作文独学には最適の書。解答例の添削という形式を取り、解説は生徒・日本人教師・ネイティブの対話で進められる。模範解答は2種類示され、一問が見開き2ページの中で完結している。非常に読みやすくできており、かつ力もつく仕組みだ。英作文を学ぶのなら是非この本を使って欲しい。

この本の利用法としてはまず問題をノートに写し、自力で英作文を仕上げたからはじめて解説を読むのがよい。おもしろいくらい正確に間違いを指摘されるはずだ。はじめに解説まで読んでしまっただけではこの感動は味わえない。

実戦編については解説が不親切なので、学校の先生に見てもらおうようにしましょう。

学校の英作文教科書

私立高校では参考書準拠の問題集が使われることが多いが、ここで触れる教科書はそうした類のものではなく、もっと一般的な「教科書」である。目安としては教科書ガイドと名のつくものが出回っているか否かというところだろうか。

簡単すぎると見下す向きもあるかと思うが、いかに簡単に見えてもなかなかどうして英語を書くのは大変だ。そこで教科書の例文を皆頭から暗記してしまおう。それがめんどくさいのならばせめて役に立ちそうなフレーズを抜き出して覚えよう。試験では、覚えている英文が使えるならそれをそのまま適当な形に直して書けばよい。何気に有効な方法なので是非おためしあれ。

英作文表現ターゲット 400 旺文社 宇佐美光昭著

英作文に使えると称する表現が400個並んでいるのだが、どうもあまり使える気がしない。むしろ「英作文のトレーニング」や学校教科書の最後についている索引の方が役に立つ。

なお、英作文の表現は一単語だけに注目して覚えるよりも文全体で丸ごと覚えてしまった方が効率よく学ぶことができる。

文法語法構文

英文法 TOP100 駿台文庫 仲本浩喜著

定番の書。見た目は易しそうで、実際その通りなのだが、それでいて確実に役に立つ。見た目でなめてかかって、こんなモノは使わないと決め込む人もたまにいるが、妙なプライドは無用どころか有害だということに気づかないようだ。

英文法・語法のトレーニング 増進会出版社 風早寛著

問題数が絶望的である。ただし、語法のトレーニングはよくできているため、これのみを本番前に詰め込むというのはいいかもかもしれない。

大学入試英語頻出問題総演習 桐原書店 上垣暁雄著

通称英頻。しかし、問題数がまた尋常ではない。よく出る問題を集めたというが、もう少し問題数を絞ることはできなかったのだろうか？左ページが問題、右ページが解説、解答は別冊となっている。構成も内容も熟語集そのままである。解説がほとんど解答になっているが、完全な解答ではないので、いちいち別冊の解答を見なければならぬ。それがめんどくさいと感じる人も多いだろう。

カバーする分野は語法文法、構文イディオム、単語発音アクセント。いずれも実際の受験では配点の少ない分野である。膨大な時間と精神力を傾けて、これ一冊を完全に覚えても、理系大学受験で役立つことがどれだけあるのだろう。少し疑問である。

新・英文法頻出問題演習 駿台文庫 伊藤和夫著

桐原英頻と区別のためにこちらは新英頻とよばれる。こちらは左問題右解答の構成を取る。著者自身が言っておられるが、あくまで本書は問題辞典という性格を持っているので、辞典相応の使い方をするのがよい。

桐原英頻と違って全問題ごとに出題頻度が3段階表示されている。もしこの本で演習をしようと思うなら、はじめは最重要問題の○、そして重要問題の◦がついた問題から手をつけていくべきだろう。

頻出基礎と標準英文法 日栄社 清水建二著

二つの英頻より問題数が少なく、構成も見やすいので、少しはやる気も起きる。問題形式はセンターの4択に似ている。文法語法問題演習は理系にとって重要関心事ではないと思う人はこちらを取ると楽。

——もっとも、この本はあまり有名ではない上にさほどレベルが高いわけではない。やって安心できる本を選ぶとしたら、やはり英頻か。

英語構文詳解 駿台文庫 伊藤和夫著

字体が最悪。読みにくいことこの上ない。ただ、並び替え作文の演習を通して構文力を身につけようという姿勢は良い。忍耐強く並び替え作文の問題をたくさん解きたいという人はどうぞ。

必修英語構文 駿台文庫 高橋善昭他著

駿台文庫の英語図書を語る上でこの本ははずせない、伝説的悪書。お茶の水の丸善でこの本が表向きに置いてある日は少ない。すべて駿台生が怨念を込めて裏返していくからである。駿台講師の間でも評判はすこぶる悪い。

「必修」だの「指定副教材」だの、はたまた「道場」だのと名のつく講義や参考書にろくなものはないということはこの本は教えてくれる。

英文法解説 金子書房 江川泰一郎著

高い評価を受けている英文法書。英文法辞典といってもいいかもしれない。受験参考書というより研究書である。一通りの文法学習を終え、文法の道をさらに追い求めたい人向けの本である。

いいからやめとけ

数学

解法のテクニック 科学新興新社 茂木勇著

解き方がスマートすぎるとよく言われる本書だが、予備校の講義よりずっと素直である。手取り足取りと言うほどではないが、そこそこ詳しい解説解答がついている。苦手分野はこの本で解法を身につけてしまおう。本質の理解はそれからでも遅くない。

鉄則 旺文社 寺田文行著

解法のテクニックが難しすぎると思う人が対象となる。ただ、サイズが小さいにもかかわらずハードカバーなので、本を開いたままにするのに苦労する。特に扇風機との相性は最悪。

大学への数学 東京出版

月刊誌と「1対1対応の演習」等がある。理系で数学を極める人用。各問題はレベル分けされているので、はじめは易しいと言われている問題から手をつけてみよう。全体的にかなり難しいが、良問揃いのため、やれば力になる。

大学への数学 研文書院 藤田宏著

難しい難しい。悪問多く、解説も読むのに一苦労。お薦めしかねる。東京出版のものと混同しないように。

大学入試の抜け道数学 学生社 涌井良幸著

テクニック偏重。それでいて紹介されているテクニックが役に立つ場面は少ない。内容的には「知っていて損はない」程度。経済的には「買ってみて損は」・・・？

チャート式 数研出版

世の中では標準的数学参考書となっているらしい。レベルは赤>青>黄>白の順になっている。私はチャート式を薦めることはしないが、あえて選ぶとするなら青チャート。赤チャートは評判がよくない。

数学にどんどん強くなる BlueBacks 中村和幸著

数学の発想法が読み物の形で示されている。受験数学に疲れたら読んでみるとよい。もっとも、この本を読むだけで数学の成績が上がるかどうかはまた別の話である。

公式集

モノグラフ公式集 科学新興社 春日正文著

数学の問題を解いていて行き詰まったときにお世話になる本。公式の他に公式を用いる例題が載っていて、それに助けられることも多い。

モノグラフシリーズはこの公式集の他にもたくさんある。それぞれテーマごとに非常に細かく分かれているので、何か一つの分野を集中してやりたいのなら使ってみてもいいだろう。

数学コメントール 駿台文庫 山本茂年他著

駿台の指定副教材。それだけでどんな本かは知れよう。

国語

純文学でも歴史小説でも SF でもファンタジー小説でも何でもいから本を読もう。
それだけで国語の成績は上がっていくものだ。

辞書

とりあえず岩波・・・とってしまうのはやはりブランド志向なのか？
なお、辞書を選ぶときは何か一つの語について引き比べてみると良い。

新明解国語辞典 三省堂

実際に言葉が使われる際の語感を重視して作られている。文を読むときに使うとよい。しかし、語感を重視するあまり元々の意味から離れた意味が書かれていることもしばしば。また、歴史的仮名遣いをマニアックと言えるほど掲載している。

率直に言って、きわめて癖のある辞書で、これ一冊のみを使うということは薦められない。他の辞書と併用して欲しい。ただ、書店の広告によれば日本で一番売れているらしい。

岩波国語辞典 岩波書店

新明解とは逆に、意味の記述や語源などの、元々の意味を押さえた上で説明をしている。自分でものを書くときにお世話になるだろう。使っていて非常に安心感がある辞書である。

広辞苑 岩波書店

とりあえず標準、である。単なる国語辞典と言うよりもちょっとした百科事典の趣がある。

学研国語大辞典 学研

言葉の意味を単なる言い換えによって示すのではなく内容的にちゃんと説明しようと努力している点、また用例が豊富な点がよい。そのため、広辞苑より高い評価を与える人も多い。

漢字源 学研

手軽に使える漢和辞典の中ではもっとも見やすく、かつ最も優れていると思う。語源について詳しく載っているため、読んでいて楽しい。お薦めの辞書である。漢字にこだわる人は是非使ってみるとよい。

また常用漢字の書き順が見やすく掲載されている。正しい書き順はきれいな字を書くための第一歩(らしい)。気になる人はチェックしてみよう。

大日本国語辞典

一体いくらするんだ？という小人の考えを見下ろすがごとくズラリ並んだ全 20 巻。図書館でもあまり見かけないだろう。日本語にとことんまでこだわる人に。

大漢和辞典

通称諸橋漢和。すべての漢字マニアのあこがれ。全 15 冊、定価 240000 円也。後学のためにも図書館で見るといいだろう。姉妹辞典として「広漢和辞典 (67000 円)」がある。神保町の古本屋で 15000 円から。この道を追求する人はどうぞ。

ベネッセ全訳古語辞典 ベネッセコーポレーション

受験古文の学習に最適。見やすい書式と充実したコラムが嬉しい。編集協力者の中には有名予備校講師の名前がズラリ。

編集者の一人でもある駿台の古文講師、白鳥先生のお薦め。

岩波古語辞典 岩波書店

語源をもっとも詳しく扱う辞書。編者の意向により動詞の類はすべて終止形ではなく連用形を見出しとしている。そのため、慣れない者には使いにくいことこの上ない。語源を追求する人や古文上級者向けの辞書である。

現代文

現代文のトレーニング(記述編) 増進会出版社 草土力著

問題と解説が別になっているのだが、問題の冊子より解説の冊子の方が厚いことに感激した。丁寧で深い解説。それだけで本書を選ぶ理由は他に要るまい。解説の後には理解を深めるコラムが付いているが、解答編78ページのコラム「希望」のクイズなど、なかなか面白い。難しいが、これをやりきれば十分な力がつく。他教科で似た性質の本をあげるなら物理の難系だろうか。まあ、国語が苦手な人は他にもう少し簡単な本を見つけてそこから入るといいだろう。

採点基準がはっきりしている点も嬉しい。なお、解答が本文の抜き出し&切り張りだと非難する声もある(予備校講師など)が、私としてはこの本の解答ほどのものが書けるのならたとえ切り張りでも高校生として十分なレベルだと思う。1問あたり10分のペースで解いて、常に30点以上をとれるようになれば現代文に心配はない。

記述式国語や小論文が課される大学を受けるのならやって損はない。カバーのセンスも良い。というわけで、イチオシの本。

現代文攻略法 駿台文庫 二戸宏義著

「現代文のトレーニング」ほどではないが、この本も解説に多くのページを費やしている。しかし、私にはその説明がどうしてもわかりにくく思えた。すべて黒一色の文字というのも見にくい。立ち読みして得るところがありそうだと感じた人は買っても良い、程度の本。

蛇足だが、国語科について言えばやはりZ会が他社より優れていると思う。

古文

重要古文単語333の攻略 駿々堂 仲光雄著

古文単語集はいろいろなものがあるが、300語程度のものが多すぎず少なすぎずと適当だろう。この本はそういった本の中でも例文選びのセンスが良く、ひとつの例文に3つもの重要単語が含まれている。また、例文の出典についてのアプローチがしっかりと書かれており、ここで古文の常識や文学史などを学ぶこともできる。

単色にも関わらず読みやすいのは構成のうまさからか。本屋ではあまり見かけないかも知れないが、使える一冊だ。

土屋の古文単語222 代々木ライブラリー 土屋博映著

二色刷だが、ごちゃごちゃしていて見にくい。「重要古文単語333の攻略」とは対照的。そのうえ、現代語訳がしばしば間違っているというオソロシイ代物。扱う単語数が222と、単語集としては最も少ないので、「古文単語の暗記量を少しでも少なく済ませたい」「でも一応単語集はやっておきたい」という人はこの本でひとときの安心感を手に入れるのもいいだろう。

駿台一の古文教師、秋本先生はこの本とその著者をさんざんにけなしていた。実にもっともである。

入試基礎古文単語ネコタン280 学研 五十嵐一郎著

まずこの本を世に送り出した勇氣ある編集者と出版社に拍手。写真の出来が良く、猫好きな人は古文を学んでいなくても買ってしまってもいい。肝心の単語集としての出来は標準的なもの。単語選びのセンスはよい。写真の中の吹き出しに気を取られなければ使えるのかもしれない。

もはや伝説となったこの本、一見の価値はある。

古文上達 増進会出版社 小泉貴著

文法も文学史も扱う古文問題集。解説が充実しているために、問題を解きながら効率よく知識を身につけることができる。解説に不満だったときは別冊解答巻末の文法ワンポイントを参照するとたいがい疑問が解消する。さらに p34~p36 で主な現古異義語を掲載しているのが嬉しい。ここに載っている単語を覚えるだけでも試験で相当役に立つ。古文は外国語などではなく日本語なのだという自覚があり、その世界に少しでも興味があるならば、この本はその期待にきつとこたえてくれるだろう。

なお、続編として「最強の古文」が出版されているが、古文を極めたいという人以外は手を出さなくても良い。確かに別冊の解説本は厚いが、そのページはほとんど本文の現代語訳に費やされており、設問についての解説は初学者に対してあまり親切ではないからだ。

得点奪取古文記述対策 河合出版 竹村良三他著

古文の記述式問題集の中で唯一と言っていい採点基準つき問題集。誤答例も載せられており、解答作成の技術を学ぶことができる。記述模試などで思うように得点できないときに大きな力となる一冊。古文の記述式問題が出題される大学を受けるのならやっておくと良い。解説に重点が置かれているためか、問題数は全部で15問とやや少なめ。

土屋の古文100 ライオン社 土屋博映著

完全な読み物。入試古文では出典のあらずしを知っているとかなり有利になるので、その種の知識が足りないと思う人は読んでおくと良い。ただし、古文本のすぐ横に現代語訳がつけられているので、あたかも古文がすらすら読めるようになった錯覚に陥ることがあり、危険である。あくまで読み物として扱うべきであり、実力を養うための本ではないことに注意しなければならない。

古文解釈の方法 駿台文庫 関谷浩著

名著だという人もいるにはいるが、私は好きになれない。というより、眠くなった。英語でもそうだが、文法は文を読むためにあるわけで、文法そのもののためにあるのではない。この本のように徹底的に文法だけを追求しては、文章本来のおもしろさなど感じられないし、したがってそのうちに古文が嫌いになってしまうだろう。文法屋さん以外は敬遠してもいい。

マドンナ古文常識217 学研 荻野文子著

マドンナ古文シリーズの一つ。なぜ217等という中途半端な数にしたのかは分からない。扱っている事項は「もし知っていれば理解の助けにはなる」程度で、気分が乗らないときに読む、くらいの使い方だ。

この本は縦書きだが、「マドンナ古文」はなんと横書きなのである。国語の本なのに。こういうゴキゲンな本はあまりないから、本屋で見ると良いかも知れない。ちなみに、古文参考書は他教科に比べ趣旨が疑われるような本が多い。

センター試験古文一問一答 三省堂 吉沢康夫著

果たしてこの本は古本屋で引き取ってもらえるのだろうか？

漢文

得点奪取漢文記述対策 河合出版 天野成之他著

特徴は同シリーズの「古文」を参照されたし。40点満点中30点以上を常にとることができればよい。実践問題集なので、この本で句形などを学ぼうと思っはいいけない。試験直前期にまとめとして使うのが良からう。

漢文道場 増進会出版社 土屋裕著

Z会だからと思って買ったのだが、結局可もなく不可もなく、標準的な問題集だった。他に気に入った本が

あればそちらを使った方がいい。

1日1題30日完成 国立大の漢文 日栄社 日比野純三著

本体291円。何なんだろう、この安さは。解説は簡単なものしか付いていないが、漢文の記述式問題に飢えているなら是非やってみよう。上級者用の、やりごたえのある問題が集まっている。

漢文の基本ノート 日栄社

漢文の基本ルールが奇麗にまとまっている本。学校で配られているはずだが、なくしてしまった場合は210円払って買おう。この本で扱っている程度のことが分からなければ何も始まらない。知識確認の意味も込めて、一度くらいは通してやっておこう。

物理

「物理っちゅうのはウンウン唸って考えて、面倒がらずに手を動かして計算せな、自分のものにならんよ。」 by 山本義隆先生
まことにおっしゃるとおりです。

難問題の系統とその解き方 ニュートンプレス 服部嗣雄著

定番の書。通称難系。物理は自分の手を動かして計算しない限り力がつかない。この本で徹底した演習を。——もちろんはじめから全部できる人間はいない。はじめは小問を2、3問解ければよい。そして、完全解答できるまで繰り返し解き直す。最終的にこの本を3回以上やり込めば物理は怖くない。なお、練習問題の解説は簡単なものなので、例題だけをやればいーだろう。

橋本流解法の大原則 学研 橋本淳一郎著

力学・電磁気編、熱力・波・原子編、理系頻出問題解法編などがある。予備校の物理講師らからはさんざんな評価を与えられる本書だが、学校で物理を習いたての初学者には嬉しい一冊。イメージを重視した解説が人気。この本で感触をつかんだら難系で腕を磨こう。

新・物理入門 駿台文庫 山本義隆著

あらかじめ断っておくと、書名の「入門」は物理学の入門という意味であって、受験のための入門参考書では全くない。著者自身がそう言っておられた。難系を一通り終えた後に読むと、物理の本質的な部分が見えてくるはずである。なお、本書の著者は湯川秀樹博士をして賛嘆せしめたほどの優秀な人物であり、かつ全国的に有名な人物である事を付け加えておく（ただし黙って座っているところだけを見ればジーンズを身にまとった普通のおじいさんである）。

挑む50題 SEG出版 吉田弘幸他著

ハイレベルで有名なSEG出版が出している、前年度入試難問集。毎年本番直前になって出版されるため、やり終えるのに一苦労する。見開きに一問と見やすい構成で、解いていて不快感がない。難系と違い解説解答は別冊。SEG出版の伝統として思い切り高校の範囲を逸脱した解説がなされている。さらっと偏微分を常用されたりしては受験生は沈没するばかりだろう。高校範囲で解答を作るには自力でやるしかない。

難系を極め、それでも飽きたらずに物理難問に挑む人のみ挑戦してよいだろう。

新・物理入門問題演習 駿台文庫 山本義隆著

「新・物理入門」にそった問題集。はっきり言って難しい。独学者は難系後に手を出すのが無難。「新・物理入門」も本書も他の本と違って次元のチェックを厳しく行い、束縛条件問題など普段あまり扱われない問題を多く取り上げている。微分積分は多用されているが、そんなに込み入った使い方はしていないため、十分理解

できるだろう。この本の難しさは微分積分より物理の本質の理解を求められる問題ばかりが集まっているところにある。

物理に関する10話 駿台文庫 坂間勇著

演習問題もいくらか収録されているが、基本的に「読み物」としての性格を持つ。内容は相当高度。また、あちこちに著者の主張がにじみ出ている。すでに絶版になっているが、倉庫に余分が残っているらしいので、注文すれば手にすることができる。物理のあらゆる問題を微積で解くような人は読んでいて楽しいかもしれない。

著者はほとんど伝説になっている先生。駿台には100人に1人くらい狂信者がいる。白墨で黒板を強打する彼の姿が見たい人は駿台物理科へ。

化学

「化学は一生懸命勉強すれば誰でも得意になれます。できる人もできない人もやる気のある人を応援します。」 by 三国均先生
化学者はたいてい性格最悪だが(偏見)、三国先生は違った。

精選化学問題集 旺文社 三国均著

定番の書。通称精選。化学はこれ1冊で大丈夫。なお、この「応用編」も刊行されているが、国立大学の後期試験を受けるのでなければそこまでやる必要はない。

有機化学問題の解き方 旺文社 小川裕司著

精選だけでは有機の演習が足りないと心配な人はこれをやるとよい。 $C_xH_yO_z$ のxyzをスマートに計算する方法(そんなに大げさなものでもないが)など、綺麗な解法が綺麗にまとめられている。

目標解答時間が書かれているが、やや多めに取ってあるようである。目標時間以内に解けるようになったら、その7割以下の時間で解くことを目指そう。

有機化学演習 駿台文庫 石川峻著

学校の間接試験前に一日で終わることができた。あまり簡単すぎはしないか?世の評価は高いのだが……。はじめの一步を踏み出すのなら精選をやればよい。構成も「有機化学問題の解き方」の方がよく、本書を選ぶ必要はあまりない。

照井式解法カード 学研 照井俊著

理論・無機・有機と3冊に分かれている参考書。このうち有機編の出来がもっともよく、精選などの解説がどうしても分からなければ本書の解説を読むとよい。読みやすく書かれているので、下手に予備校の講習をとるよりも役に立つ。

一方で理論編は買っても得るところは少なく、無機編に到っては辞書的に使うことくらいしかできない。

化学[有機]この系統整理法65で合格を決める 文英堂 目良誠二著

有機の問題がどうしても分からない人向け。文系の利用者も多い。なかなか役立つ本である。

攻める50題 SEG出版 坂井英夫他著

前年度化学入試の難問集である。内容はいかにもSEG出版。この本の理論編を直前期にやったら気が狂うかも知れない。余力がなければ有機編と無機編のみをこなし、知識の整理をすると良い。

新理系の化学問題100選 駿台文庫 石川正明著

この本を本屋で開いてみてやる気の起こる学生がどれだけいるのだろうか?著者は関西の駿台講師。自分の作ったテキストに酔いしれる困った人だという。東京の駿台にいた私はその姿を見たこともなく、類推するの

みだが、この本を見る限りその噂は正しそうだ。相当難しい問題が並んでいるが、解説が見にくい上にわかりにくく、全く役に立たない。どうせ難しい問題をやるのなら「攻める50題」を使おう。

資料集

視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録 数研出版

写真が多く載せられている化学図録は知識の整理・定着に大いに役立つ。それでいて値段は手頃である。1冊くらいは持っておきたい。なお同様の本は他にもある。そちらを選んででも一向にかまわない。

センター政治経済

政治経済は基本となる考え方が分かると覚える事項をずいぶん減らすことができる科目である。

片端からすべて暗記で片づけようと思うのは、労多くして得るもの少なしという結果になる。

そうならないように気をつけて勉強しよう。

実況中継シリーズ・センター試験政治経済 語学春秋社 川本和彦著

演習とその解説で構成されている。問題文も解説も読みやすい文で書かれていて、やる気を損なわずに済む。著者がウケを狙って書いたような選択肢にほほえむこともあるだろう。無駄な知識は覚える必要なしと割り切ったかのような著者の態度は好感を持てる。

大学入試センター試験完全対策政治経済問題集 山川出版社

社会科と言えば山川。というわけで、山川出版の政経問題集である。中身は過去問の寄せ集めなのだが、問題選びのセンスが良く、かつそれらが分野ごとにうまく分けられているので、学校の授業や教科書で一通り学習した後の実践的な訓練に使うと効果的。解説は簡単に書かれているだけなので、疑問が残るようなら学校や予備校の教員に質問に行くといい。なお、大分昔の問題も取り上げられているため、現在の情勢と食い違うような出題もあることに要注意。不審な解答は疑うべし。

ちなみに、久朗津先生のお薦めの本。

即戦ゼミセンター試験対策政治経済 桐原書店

過去問を再配置しただけの本が多い中、この本はすべてオリジナル問題を出題しているのが嬉しい。5回分の実戦形式問題集なので、本番直前に仕上げとして使うのがよいだろう。

決める！センター政治経済 学研 清水雅博著

この本は非常に見やすくスマートに書かれているように見えるが、実は細かく余計な事項が多く書かれており、「センター政治経済」受験者向きではない。

ちなみに著者は東進ハイスクールの講師。と書いてあるが、実は別の名前で駿台でも教えていたりする。彼の講義はやっぱりどうでもいい些末な暗記事項を黒板に書き殴るだけのものだった。あの著者にしてこの本あり、といった感じである。

過去問

次の3つ以外にも、旺文社が出しているものなどがあるが、今回は取り上げない。

緑本 増進会出版社

もっとも出来がよい。解説は要点をしっかりと押さえており、解答に信頼を置ける。また他のものと比べてサイズが大きいので、当然活字も大きく見やすくなり、さらに開いたまま机の上で使いやすい。しかし対象とす

る大学・学部が少ないという点に注意。自分の志望大学が緑本の対象となっていたら迷わず買っていいのだが、残念ながら対象外であれば、青本を頼ろう。

どうでもいいことだが、この本に限って読み方が何通りかある。例としては、りよくほん、みどりぼん、ぐりんぼんなど。まあ、語呂の善し悪しで使い分ければよい。

青本 駿台文庫

緑本の対象とならなかった大学を受けるときにお世話になる。解説には駿台独特の味があって、わかりにくく感じる人も多いだろう。

赤本 教学社

扱う大学の数と、解答間違いの数で他の追従を許さない古典的過去問。青本でも扱っていない大学を受ける人は泣く泣くお世話になることになる。小さくて読みにくく、開いたまま机におくことなど不可能。英語長文の訳はもはや日本語訳ではなくなっている。一番本棚の飾りとなりやすい過去問である。

センター試験問題集

センター試験は、12月から1月までの間どれくらい集中して対策勉強ができるかということと、体調・運がすべてである。人事を尽くして天命を待とう。

センター試験演習 増進会出版社

過去問とオリジナル問題の二段階構成。各教科とも単元別に分けられているために苦手分野の集中学習や得意分野の強化に最適。解説もしっかりしており、センター対策は基本的にこれを使えばよい。ただし、数学の「プログラム」オリジナル問題や政治経済などは扱っていないので、それらは他の本に頼ることになる。なお、各巻末には模擬試験問題が掲載されているので、まとめとして利用すると良いだろう。

Z会は過去問だけを扱った本も出しているが、この本だけで過去問はカバーできるのでそちらはそんなに必要ではない。ちなみにオリジナル問題は毎年同じものを使い回しており、一年前の本を学校から借り出して演習に使っても問題ない。

センター試験実戦問題集 駿台文庫

駿台が出している「駿台センター模試過去問集」である。見た目がそっくりのセンター試験過去問集と間違えないように。模試の過去問なので、駿台独特の癖のある問題を相手にすることになる。特に政治経済の問題はセンター本番と全く違う傾向の出題となっており、極端に難しい。結果が悪くてもあまり気にしないこと。一通りのセンター対策が終わってしまって、他にやることがなくなったときに手を出す本といえるだろうか。

その他

河合塾の黒本や代々木ゼミの白本、旺文社の過去問など。河合の黒本は癖が少ないと聞いているので、これを選んで良いかもしれない。ただ、私自身で確認したわけではないので、保証はしかなる。

また、予想問題集はZ会の緑パック、駿台の青パックが有名で、他には旺文社などから出ている。直前の習慣らしとして緑・青両方をやっておくことを薦める。なお、出題についての癖は緑パックの方が少ないように思える。

ホームページ

以下のホームページは2000年9月現在、存在を確認済み。
実用的なものからほほえましいものまでその内容は様々である。

浪人大学

浪人生の間では結構有名なホームページ。予備校講師の逆評定などが役に立つ。

<http://www.geocities.co.jp/Playtown/2014/>

Yahoo!学習情報

英単語ターゲット 1900 や英単語センター 1500 などの単語集・熟語集に基づいた簡単なテストを受けることができる。

<http://edu.yahoo.co.jp/>

受験生ネット

受験生の中にも暇な奴っているんだなあ。

<http://www.jukensei.net/>

浪人用語の基礎知識

浪人生活の一端を知ることができる。ただし、浪人の一年をどう過ごすかは人によって大きく異なっており、このページから得た浪人のイメージを一般化するのはやめよう。浪人中の人、あるいは浪人を体験した人は読んでみると何度か頷かされる記述に出会うことだろう。

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~ea90696/moegomi/ronin/>

終わりに

以上、私が二年間の受験生活の中で出会い、こなし参考書・問題集をあげてみました。これらの本は、1000円前後と手頃な値段にも関わらず、下手な予備校の講義以上に有用な知識を与えてくれることでしょう。

もちろん、これらの本を学ぶだけで楽々大学に進学できる、とまでは言いません。学校の先生や予備校の講師の助けを借りなくては先に進めない場合も多いでしょう。ただ、いずれにせよ、入学試験を受けるのは結局自分自身なのであり、自分自身の力をつけるには自分の手を動かして勉強しなくてはなりません。そうしたとき、これらの本が必ず役立ってくれるものと私は信じています。演習を通して確たる力と自信をつけてください。そして、健康に気をつけて、試験場に行って問題を読んで答えを書いて帰ってきてください。そうすれば結果は自ずからついてくることでしょう。

皆さんの健闘と幸運を祈っています。

平成12年9月秋晴れの日に

松井 健